

JAIRAN DENTAL HYGIENISTS' ASSOCIATION

歯科衛生だより

2022 December vol.72

発行人／吉田 直美
発 行／公益社団法人 日本歯科衛生士会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023
<https://www.jdha.or.jp/>

日本歯科衛生学会 第17回学術大会

ポストコロナ時代の口腔健康管理

—口腔から支える健康長寿—

主催：日本歯科衛生学会／公益社団法人日本歯科衛生士会

共催：一般社団法人徳島県歯科衛生士会

後援：徳島県／徳島市／一般社団法人徳島県歯科医師会／一般社団法人徳島市歯科医師会

「日本歯科衛生学会 第17回学術大会」が、2022年9月18日(日)～10月31日(月)の44日間にわたり、新型コロナウイルス感染症の感染状況の下、参加者の安全に配慮して、昨年と同様にWeb開催(オンデマンド配信／一部ライブ配信)で開催されました。

当初は新型コロナウイルス感染症の感染縮小傾向がみられたことから、「ポストコロナ時代の口腔管理」としてハイブリッド開催を予定していましたが、いまだウィズコロナ時代であり、残念ながら、初の四国での現地開催は見送ることになりました。開催期間が延長され、通常は並行開催



されている講演・発表も視聴可能となり、質問も記入形式で行えました。講演など6題、県民フォーラム1題、口演発表20題、ポスター発表92題、企業協賛セミナー3題、ライブ配信1題のプログラムが組まれ、最新情報を入手することができ会員の研鑽を深めていくことができました。参加者数は1,217名でした。

本誌では、特別講演、シンポジウム「ポストコロナ時代の口腔健康管理—糖尿病改善へのアプローチー」と一般の皆様にもご視聴いただいた県民フォーラム「健康寿命を延ばす運動」の内容をご紹介いたします。

特別講演

ポストコロナ時代の口腔健康管理

—口腔感染症と全身疾患の関連性—

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 歯周歯内治療学分野 教授

湯本 浩通 氏



コロナ禍において、感染リスクが高い職種が歯科医療職であると報告されたにもかかわらず、歯科医療現場では、日頃からマスク、手袋、ゴーグル等の着用を徹底していることに加え、更なる感染予防策を講じたことで、歯科治療を通じての新型コロナウイルス感染例はほとんど報告されていません。歯科における感染予防対策は医療分野で高く評価されています。今後も我々は自信をもって感染予防対策に取り組んでいくべきであると述べられました。

そして、近年、口腔と全身の健康状態や生活の質との関連について多くの報告があり、講演ではエビデンスに基づいて口腔バイオフィルム感染症、特に歯周病と全身疾患の関連性をお話いただき、口腔感染症から全身疾患発症、重症化への予防や対応策としての口腔健康管理の可能性についてわかりやすく説明いただきました。

口腔健康管理においては、歯科衛生士は重要な位置を占め、歯と口の健康により健康寿命の延伸に導くためにも大きな役割を担っていると語られました。

(日本歯科衛生学会 幹事 麻賀 多美代)

シンポジウム ポストコロナ時代の口腔健康管理 —糖尿病改善へのアプローチ—

基調講演

知と実践のプロフェッショナルを目指して

加茂健やかクリニック院長

吉本 勝彦 氏



近年、歯科と糖尿病の関連についての論文が多く発表されており、糖尿病専門医の視点から、糖尿病の診察方法、糖尿病の治療薬、血糖の検査方法について講演されました。糖尿病合併症である糖尿病性細小血管症・糖尿病性大血管症について、糖尿病治療薬である「SGLT-2阻害薬」「GLP-1受容体作動薬」が近年の糖尿病治療の第一選択薬となっていると説明がありました。「GIP／GLP-1受容体作動薬」の活用についても期待が高まっていること、また自己血糖測定方法として、指先に針を刺し血液を出して測定する「SMBG」、近年では機械をかざすだけで血糖値を測れる「is-CGM」も選択されるようになってきていることが示されました。

糖尿病は患者が主体となって治療していく疾患であり、医療従事者がサポート・アドバイスし、意見交換しながら最も適した治療方法を見つけていくことが重要であると考えさせられる講演でした。 (日本歯科衛生学会 企画委員会 阿部 智美)

講演 1

歯科医師の立場から

徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔機能管理学分野 教授

松山 美和 氏



Withコロナ時代における歯周病と糖尿病の関連について講演されました。糖尿病に罹患しているとCOVID-19が重症化しやすいと報告されています。そのため、普段から歯周病治療を徹底し、また適切な口腔健康管理を行うことで血糖コントロールしやすい状態にしておく必要があります。COVID-19に感染して発症しても、血糖コントロールが良好であれば、重症化リスクを抑えられます。歯科の立場から歯科保健指導を行い、歯周病改善、セルフコントロールから血糖コントロールへつなげていくことが必要であると説明がありました。

最後に、医療従事者はCOVID-19に限らず全ての感染症予防対策に努め、口腔健康管理を必要とする対象者に対し安全に提供する必要があることが示されました。歯周病と糖尿病の関連を踏まえ、Withコロナ時代でどのようにアプローチすべきなのか、気づかされる講演でした。また、糖尿病予防指導認定歯科衛生士は社会的に期待されているため、認定を取得する歯科衛生士が増えることを望まれていました。 (日本歯科衛生学会 企画委員会 阿部 智美)

講演 2

管理栄養士の立場から

公益社団法人徳島県栄養士会 会長

松村 晃子 氏



新型コロナウイルス感染拡大における生活様式の変化、糖尿病の食事療法の方針についてご講演いただきました。一般の方へのHbA1cに関する意識・実態調査の結果より、食事に対する関心が高いことからも、糖尿病と食事は深い結びつきがあることが見えてきました。食事療法は糖尿病治療の中の基本ですが、生活習慣の多様化に伴い、一律の栄養指導が困難になっており、この状況に対応するために治療方針の個別化を図る必要があります。高齢者の場合、食事と栄養の問題点は多く、生活習慣病とフレイルが併存していることも珍しくないことが示されました。また、口腔の健康を保ち、いつまでも口から食べられるということは、糖尿病の食事療法の視点からも大切であることが説明されました。

糖尿病療養指導は、多職種が連携していくことが重要です。歯科衛生士もその一員として多職種との協働の中で、今後、新たな指導展開を進めていくことを期待していました。 (日本歯科衛生学会 企画委員会 阿部 智美)

講演 3

歯科衛生士の立場から

社会医療法人川島会 川島病院 歯科・歯科口腔外科

高石 和子 氏



歯科衛生士の立場から糖尿病患者における医療連携、歯科治療において注意すべきことを具体的な症例を挙げながら講演されました。

糖尿病患者の口腔健康管理を行うにあたり、医科との連携として、電子カルテや糖尿病連携手帳で患者情報を共有して医療連携を行っていると話されました。

症例の1つとして、糖尿病腎症の方で透析患者の歯周治療ではHbA1cを指標とするのではなく、血糖値を確認していると説明があり、血糖値の高低は、患者によって使い分けていくと話されました。川島病院での糖尿病患者に関する研究では、非糖尿病患者よりもオーラル・ディアドコキネシス値、舌口唇機能が低下していることが明らかになりました。また、糖尿病患者の舌口唇機能低下には食品多様性スコアが関係していることも報告され、多様な食品をバランスよく摂取することは、口腔機能を維持する要因の1つであると説明されました。

糖尿病と歯周病に完治はないからこそ、糖尿病の症状が安定または改善するためにも長期的な口腔健康管理ができる体制づくりが必要であると語られました。

(日本歯科衛生学会 企画委員会 小倉 千幸)

総合討論

日本歯科衛生学会学長の吉田幸恵氏の進行で糖尿病患者に対して各氏からの話がありました。

吉本氏より、後期高齢者のBMIIは25くらいが「生命予後としてよい」とされており、良質なタンパク質摂取を心がけることを指導していると説明がありました。また、1型の糖尿病では、インスリンが枯渇している状態のため、コントロールするのが難しく、低血糖を起こしやすいことや、2型糖尿病でも、血糖のコントロールができない患者には、糖尿病だけでなく背景を把握していく必要があるとの提案がありました。松山氏は、認定歯科衛生士の方々が、社会貢献し実践の場で活躍していただきたいと考えていると述べられました。松村氏は、後期高齢者は、生活の全てが自立しているとは限らないため、一緒に生活している家族の方にも糖尿病治療やフレイル予防も説明していると話されました。高石氏は、血糖のコントロールができている患者には、ほぼ通常の歯周治療をおこなっているが、糖尿病のコントロールが不良な方は、歯周治療も上手くいっていない印象があると語られました。

(日本歯科衛生学会 企画委員会 小倉 千幸)

県民フォーラム

健康寿命を延ばす運動

学会のプログラムの中で、一般の方も無料で参加できる「県民フォーラム」は、毎回学会共催県が担当し、県内在住の著名な方にお願いしています。今年もWeb(オンデマンド配信)で繰り返し視聴することができました。

田中氏は普段から健康寿命を延ばすための「健康運動」や「運動療法」を研究されています。「とくしま健康寿命からだカレッジ」を開設し地域でのリーダーを育成、その傍ら地域活性化活動を展開し、地域での起業や人材育成の支援をされ、地域貢献に取り組まれています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で自粛生活が続き、外出や活動の機会が減り、運動不足となっています。生活習慣病の予防は「1に運動、2に食事」が大切であり、自粛が健康寿命を短くすることから、スクワット、バランストレーニング、ストレッチなど、簡単に継続して取り組める運動の方法をご紹介していただき、あらためて運動の大切さを考える良い機会となりました。

講演の中には「人は脚力と共に老いる」「老後の備えに貯筋」「のばしたい しわと歩数と 健康寿命」「貯筋して健康という利子がついてくる」などの名言にも感心させられました。

徳島県は糖尿病死亡率が毎年全国上位にあり、行政ではこ

徳島大学 人と地域共創センター
教授 田中 俊夫 氏



の状況を改善するために「プラス1,000歩く」ことや阿波踊り体操を活用した健康づくりを推奨しております。

阿波踊り体操には、スクワット、ストレッチ、筋力づくり、バランス運動、全身運動の多要素が含まれており、楽しく継続して取り組めると思います。また阿波踊り体操を継続することで、実際の阿波踊りに参加される時には上手く踊れそうですね。

阿波踊り体操には、基礎編からリハビリ編などバージョンに応じたDVD、YouTube配信もされています。興味のある方はPC(スマホ)検索をおすすめします。

「膝上げて 腰下げて

健康寿命延ばしましょう～
踊らな そんそん！」



(第17回学術大会 大会長

一般社団法人徳島県歯科衛生士会 会長 河野 美枝子)